

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2024年 2月 22日

事業所名 児童発達支援 ステラ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6		・個別、集団、専門療育別にスペースを確保している。 ・療育によって部屋を使い分けができる。	・落ち着いて、療育が受けられるよう環境を整えていく。
	2	職員の配置数は適切である	6		・土曜日の閉所	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6		・バリアフリーになっている ・視覚支援を用いている。	・より個々に合わせた環境配慮を今後も考え、取り入れていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6		・支援前には掃除や消毒作業を行う。	・支援環境の大切さを職員間で再度共有を行い、今後も環境整備を行っていく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6		・月に1回、サポートアドバイザーによる勉強会を行っている。	・PDCAサイクルについて、職員間で共有する機会を定期的に設け、意識の向上を図る。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6		・アンケートを毎年実施している。	・保護者のご意見や意向等を職員全体で共有し、改善につなげる。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6		・ホームページで公開している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6		・法人内のサービス向上委員会に参加。	・サービス向上委員会での意見も参考にしながら、業務の見直しと改善につなげていく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		・会議等で他の職員へ研修内容の報告し共有している。	・必要な研修については、全職員が参加できるようにしている。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6		・丁寧に聞くように心がけている。 ・支援計画について、会議等で話し合いをして、必要に応じて修正するようにしている。	・一人ひとりの子どもの状態の把握と支援の方向性を職員間で確認を行っていく。 ・必要な支援は何なのかを、職員間で共有し実践していく。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	1		・事業所に応じたアセスメントツールの活用を行う
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6			・ガイドラインについて、内容や重要事項についての職員間での共有する機会を設ける
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6		・支援計画を基にして、活動内容も工夫している。	・成長に合わせた支援の見直しを行う。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6		・毎月のねらいに沿って、担当職員がプログラムを立てている。	・年齢別や個人の課題に合わせたプログラム立案を日々見直していく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		・週ごとに集団プログラムの担当職員を決めて、活動が固定化しないようにしている。	・活動の中に少し工夫を加える等、いろんな視点からできるように、職員のスキルアップを図っていく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6			・子どもの状況に応じて、臨機応変に対応している。 ・支援計画を基にして、実際の支援にいかせているのか、振り返りの時間を持つことは必要。 ・職員のスキルアップが必要。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6		・情報共有する時間は毎日とるようにしている。	・ホワイトボードを活用し、その日の動きを把握できるようにしている。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6		・情報共有する時間は毎日とるようにしている。	・気づきについては、普段から職員間の中で共有できるようにそれぞれの発信を大切にしている。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		・記録は分担して書くようにしている。	・記録の内容については職員によって差があるため、記録の重要性を再度共有することは必要。 ・記入をして終わりではなく、それを次に活かしていく。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6		・保護者から相談を受けた際には職員間で共有し、必要に応じて支援の見直しを行う。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6		・いつでも見ることができるよう、ガイドラインはファイリングしている。	・ガイドラインについて再度確認する時間は必要。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5	1	・法人内のこども園・一時保育等と連携をとっている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	2	4	・受け入れるとなれば、関係機関との連携は大切にしておく。	・現在、該当児童はいない。受け入れるとなれば専門職員の配置や職員一人ひとりのスキルアップが必要。 ・医療的ケアに関する研修等の機会も必要。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	2	4		・現在、該当児童はいない。受け入れるとなれば専門職員の配置や職員一人ひとりのスキルアップが必要。 ・医療的ケアに関する研修等の機会も必要。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6		・クラスの担任と支援児童の様子について情報共有している。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	3	・就学前に小学校に訪問する等連携を取っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	2		・研修は受けられていないが、必要性は感じるため、機会があれば検討していく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	6		法人内のこども園の子どもと活動する機会がある。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	6		・区の子ども支援部会に参加。	・その時々の内容を共有し、意見や提案等があれば、部会にあげている。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		・日々の連絡帳以外にも、積極的に声かけをし、保護者が相談しやすい関係を築いている。	・今後も日頃の保護者とのやりとりを大切にに取り組んでいく。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	3	3		・十分に実施できているとは言えない。保護者支援も今後は大切にしていきたい。
保護者への説明責任	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		・丁寧に説明するように心がけている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6		・支援計画作成の際は説明を行い、同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	3	3	・職員間で共有しながら、その都度、できることに取り組んでいる。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6		・保護者会を開催し、情報共有の機会をつくっている。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6		・職員間での報告、連絡、相談は大切にしている。	・報告、連絡、相談、職員での話し合いを行いながら、今後も迅速に行えるようにしていく。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
等	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		・定期的に会報を発行している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6		・鍵付きのロッカーで保管している。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6		・視覚的にわかりやすいものを使用している。(写真や絵カード等)	・その都度、子どもにあったものを取り入れていく。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	1	・法人内のフェスティバルの開催。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6		毎月、災害や防犯を緊急事態を想定した訓練を行っている。	・マニュアルの作成だけではなく、定期的に見直しも行っていくようにする。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6		・毎月1回実施	・火災や地震等、いろんな状況を想定した中で今後も訓練を重ねていく。 ・その都度の訓練をやって終わりではなく、職員の意識の持ち方と子ども一人ひとりの特性の把握は必要。 ・振り返りの時間は今後も行い、職員がいろんな意見を出せるようにしていく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6			・該当児童がいない。いる場合は、しっかりと確認を行い、職員間でも共有を行う。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6			・該当児童がいない。いる場合は、しっかりと確認を行い、職員間でも共有を行う。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		・その都度、記録するようにしている。	・小さな事であっても職員が感じたことを日々の中で出しあい、共有していく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		・虐待防止研修への参加。 ・会議の中でも取り上げ、共有を行っている。	・研修は、今後も継続して取り組んでいく。 ・チェックリストも活用する中で、職員それぞれが日々の関わりについて、振り返る機会を大切にしていく。
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6		・契約時に丁寧に説明をしている		

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。